

A  
documentary film  
"umi yama aida"

ここから始まり、  
ここへ還る。

# あやみ ひま たし

伊勢神宮の  
森から響く  
メッセージ

伊勢神宮神職◎河合真如

建築家◎隈研吾

宮大工棟梁◎小川三夫

映画監督◎北野武

神宮司廳管林部◎倉田克彦

本宮池田木材三代目◎池田聡寿

法隆寺管長◎大野玄妙

京都大学名誉教授◎田中克

脳科学者/作曲家◎大橋力

牡蠣漁師◎畠山重篤

生態学者◎宮脇昭

料理人◎成澤由浩

「本当に涙が止まらなかった。もはやあなたも、じっとしてはいられなくなるはずです。」阿川佐和子 (作家)  
「百年後を見越して森を作ってきた日本。この映画はその凄さを感じさせてくれる」野口健 (アルピニスト)

伊勢神宮で約千三百年間続けられている二十年に一度の神事である式年遷宮。  
「なぜ日本人はこの儀式を絶やさず、祈りを捧げ続けてきたのか」。  
神秘の森への旅が今始まる。

監督/撮影監督◎宮澤正明

製作◎サステイナブル・インベスター 制作◎ハートツリー、ジェネレーション・イレブン・ピクチャーズ 制作協力◎宮澤正明写真事務所  
エグゼクティブプロデューサー◎奥山秀朗 プロデューサー◎服部 進、鎌田雄介、瀧澤 信 編集◎宮島竜治 構成◎鎌田雄介 音楽監督◎立川直樹 音楽◎アキコ・グレース、晋多崎修 テーマ曲◎ AUN Jクラシック・オーケストラ



平成二十五年十月、伊勢神宮で第六十二回式年遷宮が催された。式年遷宮とは伊勢神宮で千三百年以上前から続けられてきた、二十一年に一度古い社殿の隣に全く同じ様式の新しい社殿を建てて祀さまにお遷りいただく大祭である。



この映画は十年間伊勢神宮を追い続け、その記憶を探る旅に出た写真家が出したひとつの集大成だと思っています。写真では表現出来ないことへの枯渇した想いが映画という新たな表現を呼び込んだのかも知れません。宮澤正明

10年に渡り伊勢神宮を撮り続けてきた写真家・宮澤正明。かねてから神宮に現代の日本人が失ったアイデンティティーを見出していた彼は、式年遷宮を見届け、改めてその叡智の神髄を映像で探ることを決意。「なぜ日本人は千年以上もこの儀式を絶やらず、祈りを捧げ続けてきたのか」。神宮の神域林、木曾の大檜林、白神山地といった深山幽谷に分け入り、漁師・畠山重篤と木を植え、宮大工棟梁や世界的科学者と出会い、隈研吾と北野武に宇宙観を聞いた。日本中を回り人と自然に触れたこの長編ドキュメンタリーは、森と海と共生を続けてきた日本の心を探る旅の記録である。

**河合真如**  
伊勢神宮神職。公害問題に直面しても自然との共生思想をもつ神道に共感し昭和50年神宮に奉職。得意即妙な語り口で講演の人気も高い。

**小川三夫**  
宮大工棟梁。法隆寺の鬼と呼ばれた棟梁西岡常一の唯一の内弟子。法輪寺三重塔などを再建。現在は後継者の育成に力を注いでいる。

**倉田克彦**  
神宮司廳管轄林部。伊勢神宮の森を管理している。数百年後を視野に入れた計画を継承して式年遷宮に使用する御用材の楡を育てている。

**大野玄妙**  
法隆寺第129世住職。3歳から法隆寺に住み小学3年生で得度。法隆寺は7世紀に創建された現存する世界最古の木造建築物群である。

**大橋力**  
脳科学者として高周波が脳を活性化させる「ハイパーソニック・エフェクト」を発見。作曲家として芸能山城組主宰。映画「AKIRA」で有名。

**宮脇昭**  
横浜国立大学名誉教授。土地本来の植生を活かす森作りの方法を編み出し万里の長城からケニアまで世界中で四千万本以上の植樹を実現。



**隈研吾**  
建築家。原産地の素材を活かして地域や環境と密着融合するスタイルで国際的に評価が高い。根津美術館、新歌舞伎座など世界中に作品多数。

**北野武**  
映画監督。国民的なタレントとして活躍する一方、世界的な映画監督として名声を博す。「HANA-BI」でベネチア国際映画祭グランプリを受賞。

**池田聡寿**  
木材会社経営。数百年以上伊勢神宮に遷宮の御用材を納めてきた長野県木曾郡の大檜林で代々木材業を営み伝統的な方法で森を育てている。

**田中克**  
京都大学名誉教授。沿岸生態系や稚魚の生理生態研究の第一人者。里山の重要性を指摘し、森から海までの統合学問「森里海連続学」を提唱。

**畠山重篤**  
気仙沼で代々牡蠣養殖業を営む。20年以上漁師による植林活動「森は海の恋人運動」を主宰。国連から「フォレスト・ヒーローズ」授賞。

**成澤由浩**  
料理人。「森とともに生きる」をテーマに料理を通して環境問題を訴え続けている。世界で最も影響力のあるシェフにも選ばれる。

映画が始まったと同時に私は心の中で「オオッ!!」と驚嘆の声をあげ胸が騒ぎ出し、終わってからも涙が止まらなかった。不安にかられる私のような日本人がこれから何をすべきかを、森を抜けるそよ風のような優しさに包んで教えてくれる映画です。もはやあなたもじっとしてはいられなくなるはず。阿川佐和子◎作家

3800メートルを超えるヒマラヤに森をつくらうという活動を始めた。日本の技術を使えばできるってことがわかった。日本は伊勢や明治神宮の森など動物が住める森を百年後を見越して作ってきた。この映画は日本の森は本当に素晴らしい日本のDNAってすごいってことを感じさせてくれた。野口健◎アルビニスト